



## サルと人間のちがいはどこにあるの

### サルと人間のちがいは

〔脳〕ニホンザルは、脳のしわが発達し、人間の脳に似ているが、大きさは、ヒトの10分の1。チンパンジーやゴリラの脳は、かなり大きく、いっそう人間の脳に似ているが、大きさは人間の3分の1。

〔頭部〕サルと人間では、歯並びなどが似ているが、人間の場合は、口の部分がつき出しておらず、犬歯も小さくなっている。また、サルと人間では、目が頭部の前に二つ並んでついているところや、サルも、色が見分けられるところが、似ている。

〔手〕チンパンジーのように、木にぶら下がるサルは、手全体が長いのに、親指が短く、指先で物をつまむのがへた。人間の手は、指を器用に使える形をしている

〔足〕ほとんどのサルの足は、手と同じような形をしている。木の上でくらすため、足でも、手と同じように、木の枝がつかめる。反対に、人間の足は、指先で地面をけるのに、つごうがいい形になっており、体重を支えるために、かかとの部分がよく発達している。

〔歩き方〕サルは、ふつう、4本足で歩く。人間は、2本足で立って歩く。

### 道具を使うのが、サルと人間の大きなちがいは？

チンパンジーも道具を使います。ですから、道具を使うのが、サルと人間の大きなちがいはいえません。しかし、チンパンジーは、必要が生じると道具を作りますが、使い終わると捨ててしまい、次に必要が生じると、また、新しく作ります。人間は、使い終わっても捨てずに保存しておき、くり返し使います。そして、“道具を作るための道具”も作るようになったのです。このように、サルと人間とでは、道具の作り方や、道具の使い方、そして、生活上の重要性が、大きくちがっているのです。（監修・保志 宏）

